平成３０年度　自己評価実践報告書

学　校　名　　福島県立福島東高等学校

Ⅰ　自己評価の概要

１　『学校経営・運営ビジョン』について

○『学校経営・運営ビジョン』（別紙１）

○作成のねらい、意図、プロセス等

「平成30年度学校の自己評価等の進め方について」に基づいて、『ビジョン』の作成及び評価を実施した。平成29年度の改善点を踏襲した。

①『ビジョン』の重点目標は、校長の経営方針に基づく文言に加えて、各部・学年・教科の努力目標のうち、全教職員がその意義を共有し、チームを超えて学校全体で実現に取り組みたい事項を掲げた。

②『ビジョン』においては、「数値目標」ではなく「指標」を掲げた。

③『ビジョン』に関する自己評価の参考資料を得るためのアンケート調査においては、質問項目を精選した。

④各部・学年・教科の年度末評価（反省）の実施時期を早め、アンケート結果と併せての総括評価を第３回学校評議員会に提出できるようにした。これにより、学校評議員からの評価を踏まえて、次年度の計画策定をする時間が生まれた。

⑤全体として、学校評議員制度、人事評価制度等と学校の自己評価の体系を有機的に結びつけた。

⑥平成30年度は、教員の日頃の探究的な取組を「可視化」するために、教員の人事評価シートに「研究テーマ」を位置づけた。

２　校内組織体制について

校務運営委員会を学校評価委員会に位置づけた。

３　自己評価年間計画について

○『年間計画表』作成のねらい、意図、プロセス等（別紙２）

Ⅱ　評価結果の概要

１　各部・学年・教科の年度末評価（別紙３）

２　アンケート調査（別紙４）

①調査の概要

対象	配布日	〆切日	回答率	内容
生徒	12月10日（月）	12月17日（月）	92.9%	質問は10～11項目に厳選し、評価者間の差も分析対象とした。
保護者			87.7%	
教職員	12月10日（月）	12月17日（月）	96.3%	

②評価の基準

「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」の４段階評価とした。

３　年度末評価のまとめ（『ビジョン』の総括評価）

〇教職員による評価

(1) 重点①「学びの充実」

学校全体として、授業を大切にする姿勢が確立している。「対話」型の授業研究が

多数実施された。授業交換等により自習時間も少ない。

大学進学プロジェクトは計画通り実施され、進路指導部は「進路情報センター」として機能した。大学合格者については、国公立推薦・AO合格者は例年並みであった。センター試験は全国的に平均点が上がったが､本校は昨年度を下回った。

英語科は昨年度に引き続き外部資格試験（英検）受験を促した。GTECについても準備が進みつつある。

家庭学習時間と学習科目の時間配分等には課題がある。２学年が課題としている｢自立した学習者としての文武両道の実践」は引き続き本校全体の課題である。

「主体的な学び」に対する満足度は、１年生の79.0％に対して２年生61.3％、３年生63.2％と、上の学年ほど満足度が低い。教授方法の違いによるものか生徒の変化によるものか検証したい。

(2) 重点②「体育文化活動の充実」

多くの生徒が部活動を継続し文武両道を実践している。山岳部、放送委員会、美術部が全国大会に出場し、多数の部・委員会が東北大会に進出した。

(3) 重点③「キャリア教育の充実」

授業に加えて、地域社会見学、未来の知事選等、行政、地域企業等とタイアップしての優れた取り組みが行われているが、総合的なコミュニケーション力と生活力の育成については、学校全体で改善の余地がある。

新体力テストA級取得者各学年5％アップを目指したが、達成したのは１学年だけっであった。しかし、各学年とも他校と比較しても高水準を維持している。

一昨年度より、１年生の歯科治療率100％を指標のひとつとした。部活動顧問からの働きかけを強化しているが、まだ60％ぐらいであり、さらなる働きかけを強化したい。

図書貸し出し数は、2,107冊（1/31現在）で１人あたり2.57冊であり、目標の4冊まではまだまだである。

SNSの使い方や依存の問題は本校においても課題であり、平成30年度入学生から、オリエンテーションにおいて新入生とその保護者に､外部講師による講話を実施した。

(4) 重点④「情報発信・共有、施設の活用」

全教員による「東高を考える会」等において中高の接続等の本校の課題について意見交換が行われた。

域内の中学生に対しては、東高見学会や高校説明会で「東高の教育」をアピールしたが、本年度の志願者数は昨年度に続き減少傾向にある。ホームページによる情報提供量は向上し、１年間のアクセス数は１２万件超となった。台風等の接近に伴う臨時休校等の連絡やインフルエンザによる学級閉鎖等については、緊急連絡メールが適切に活用された。

施設については、大震災の後で埋められた廃土の掘り起こしが行われた。

(5) その他

本校独自の45分授業について検討を重ね、平成31年度より、50分授業に移行することとした。あわせて時程も変更した。文武両面でのよき伝統を維持しつつ、高大接続改革にそなえて体制整備を計画的に進めていく所存である。

教職員の学校評価アンケート回答率は、大幅に向上した。

(6) 総括

計画に則った教育活動を実施することができた。教員は熱心に生徒と向き合い、学習活動・部活動・生徒会活動等の各方面で成果を出している。

「子どもを東高に入学させてよかったと思う」かという問いに対する保護者の回答は、「そう思う53.2％」＋「ややそう思う35.9％」＝89.1％であり、昨年度までと同水準で、満足感を持っていただいている。しかしながら、入学してよかったかという問いに「そう思う」と答えた生徒は、平成26年度の51.0％から、昨年度39.1％，今年度30.5％と確実に減少している。また、「文武両道」というモットーが素晴らしいと思っている生徒も、平成26年度の50.1％から昨年度30.3％、今年度26.9％と、明確な

減少傾向にある。本校の特徴・強みを一層伸長させつつ、その意義を丁寧に生徒に伝えるとともに、文武を両立させて勉学の時間が確保できるよう、バランスの良い学校運営を図る必要を痛感している。

不登校・長欠、学校不適応、学業・進路の悩みでカウンセリングを受ける生徒は多い。課題の量や提出のさせ方等について、改善を図っているところだが、学校に適応できない生徒の指導について明確な方針に基づく具体的な改善策を講じる。

また、教員の在校時間調査でも、勤務時間をオーバーする時間が、毎月８０時間を越える教員が少なくない。東高の教育目標の達成のためには、どうしても教員の力が必要であるが、健康も大切である。さらなる教員の働き方の改善に努めたい。

〇学校評議員による評価

(1)肯定的な評価

①『学校経営・運営ビジョン』と校内組織体制について

・進学モデル校であり、その実力は文武両道の精神と共に保護者や教員、地域にも周知されている。

・方針が明確な言葉で明文化されており、内容も時代に即していて評価できる。

・ビジョンに忠実な発信がされており、組織的な展開が感じられる。

②『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について

・評価活動は、組織的に行われ、回収率も高く適切に理解・浸透されている。

・重点目標に沿った努力・課題解決意識が自己評価に表れており、学校内外に展開されて

③広報とアンケート等について

・学校ＨＰや東高通信等の様々な媒体によって広く情報発信がなされている。アンケート結果の公表及び分析も適切になされており、説明もわかりやすく理解しやすい。

④取組み状況全体について

・教職員が一体となって同じ方向に向かおうとしていると感じられる。

⑤自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取組みとその改善

・年間を通じて取り組んできた目標に対する振り返りに加えて、今後の検討課題や継続目標など前向きな姿勢・考察が読み取れる。

(2)改善を要する点

①『学校経営・運営ビジョン』の展開と自己評価について

・教科の反省の中で、行事反省が「なし」と回答できる教科は、そのままでよいのか再考して欲しい。

②広報とアンケート等について

・在校生や保護者への情報提供は適切だと思うが、今年度の受験者数の減少を考慮すると、地域への提供は効果が出ていない。少子化に伴い生徒数の減少は避けられない。その中で東高が個々の個性を生かせる魅力的な学校であると選択してもらえるようなアピールが足りないのではないか。

・保護者の評価は高いが、生徒では上級生になるにつれ評価が低くなる要因の追求が必要である。

・教員アンケートで、教育環境が整っていないという割合が２割を占めていることが危惧される。

・文武両道に対する評価が、生徒と保護者で差が大きくなってきている。

・教員が工夫している教材や教え方の改善をもっと対外的に発信することが全体評価につながると思う。

④取組み状況全体について

・教職員の過度の超過勤務の実態は、改善が必要である。

・今年度は勤務時間の削減が提案されたこともあり、教職員の仕事の見直し・改善につながっていると思う。ただし、学校のモットーや入学後の満足度に対する生徒の評価が低下しているため、今後の改善を期待する。

・教職員の働き方改革と現在の学校経営・運営ビジョンの両立が難しくなっている。「教員が安心して生徒と向かい合える」と感じている教員が少ない理由を精査する必要がある。外部講師や部活動指導者の導入も保護者と共に考えるべきである。
・「生徒のために」という使命感には敬服するが、教職員の心身の健康も大事である。
・「本校はいじめ防止の取り組みをきちんと行っている」化の設問に対し、そう思わないという生徒の回答が一定数存在していることが気になった。

⑤自己評価活動と学校評価全体への学校の組織的な取組みとその改善

・教育目標に対する保護者の評価は大きな変化はないが、創立から40年が経過し生徒の気質がかなり変化している。センター試験から新テストへの過渡期でもあり、生徒は無難で楽な進学を選択するような傾向にあり、多様化が求められるのではないか。
・近隣の教育施設や商業施設等との連携した取り組み等が実現すれば、さらに地域から評価される存在になるのではないか。
・学校側から地域社会に積極的に関与する機会を増やすべきである。また、生徒にも地域の一員であるという意識を持てるような機会を増やして欲しい。
・近頃、大学でも楽なほうに流れていく学生が目につきますが、それは高校の頃から始まっているのではないかと、今年度のアンケート結果についてうかがった際に感じました。「文武両道」という学校の特色をなくさないためにも、また先生方の負担軽減のためにも授業や部活動の効率化が求められると思う。
・年間を通じて「文武両道」が負担であるという意見を多く耳にした。今一度、進学校である事の原点に戻り、まずは進学に力を入れるべきである。他の進学校に比べて東高の不人気が残念である。東高でしか出来ない魅力づくりを保護者と共にして欲しい。
・「文武両道」に固執しすぎである。本来の目的である進学に影響を及ぼさないようにして欲しい。

Ⅲ　広報の概要

(1) 『ビジョン』、アンケート調査結果、年度末総括評価(学校評議員による評価を含む）については、学校のホームページで公表する。
(2) アンケート調査結果については、次年度PTA総会等で配布する。
(3) 学校の教育活動全般については、ホームページの記事の更新、各種通信（『東高通信』(教務部)、ほけんだより、東高図書だより、生徒会新聞、東高新聞(新聞委員会)、生徒会誌『まほろば』、図書館報、PTA広報紙・新聞）等で、保護者等への広報に努めている。

Ⅳ　次年度へ向けて

〇平成３１年度の学校経営方針(素案)

(1) ４つの重点項目「学びの充実」「体育文化活動の充実」「キャリア教育の充実」「情報発信・共有、施設の活用」について、各部・学年・教科等の目標をもとに具体的な指標を定めて実践する。
(2) 本校の歴史・現状・将来のあるべき姿と高大接続改革、学習指導要領改訂等教育界の動向を踏まえて、カリキュラムの改善を着実に進める。議論の中から具体化する改善策は順次取り入れて、教育の質の一層の向上を目指す。